

2022年7月31日

「第52回 機械工業デザイン賞 IDEA」(主催：日刊工業新聞社)  
高速造形 金属 3D プリンタ「LPM325S」が「最優秀賞(経済産業大臣賞)」を受賞

このたび、高速造形 金属 3D プリンタ「LPM325S」が、日刊工業新聞社主催の「第52回機械工業デザイン賞 IDEA」において最優秀賞(経済産業大臣賞)を受賞いたしました。

「機械工業デザイン賞 IDEA」は、機械分野の製品の中で、優れた機能美と性能を併せ持つものを、外部の有識者による審査委員会が選定して表彰するものです。高度経済成長期の1970(昭和45)年、日刊工業新聞創刊55周年記念事業として発足し、経済産業省・文部科学省・特許庁・日本商工会議所・産学6団体の支援を受け現在に至る歴史と権威のある賞です。

今回、応募数は35社38件と昨年に比べ増加し、その範囲も工作機械や食品機械、ロボット関連製品、医療・福祉機器など多岐にわたりました。

今回受賞した「LPM325S」は、1台のマシンで多彩な金属粉末造形を可能にしたマルチ造形対応型の金属3Dプリンタです。金属粉末の供給・回収・ふるい作業を自動で行う独自ユニットを標準搭載することで、従来2日間要したこれらの作業を、ユーザー自身で2時間以内に終わられます。複数の粉末に1台で対応可能で、交換作業は粉末ごとのユニットを付け替えるだけで済みます。また、加工時に発生する金属蒸気の集積物(ヒューム)の回収能力も向上、さらに機械、電源、周辺機器を一体のベースに搭載し、フルカバー内に収められるようにデザインするなど全体をコンパクト化しました。

これらの最新技術のモノづくりをリードする画期的な性能が高く評価され受賞に至りました。



高速造形 金属 3D プリンタ「LPM325S」



日刊工業新聞社・井水社長と古川社長(右)

## ■贈賞式の様子



「最優秀賞」贈賞式



スピーチをする古川社長



「最優秀賞」のブロンズ像と楯